

梨の早期成園化に最適!! 『低樹高栽培』

梨の栽培にあつては平棚栽培が主流ですが、果樹棚等の初期投資が高額な上に、成園並の収量を上げるまでには8年以上を要します。そこで、県農業技術振興センターで開発された低樹高栽培について紹介します。

●仕立て方

樹間4m×列間3.5mに定植。定植後1年目は2本の主枝候補枝を真っ直ぐ伸ばし、新梢伸長停止後、約1mの高さに水平誘引し2本主枝とします。定植2年目以降は、主枝から発生する新梢を両側に約45度の角度で誘引し側枝とします(図1)。

定植3年目から側枝に着果させるシンプルな仕立て方により、従来の平棚栽培に比べ、摘果や収穫作業の省力化と作業姿勢の改善が図れます(図2)。

簡易棚は、直管パイプやアーチパイプを用いて約6万円/aで自家施工できます。しかし、防鳥防蛾ネットを被覆する構造でないため、パイプハウスや直管パイプ等でネットを設置する必要があります。

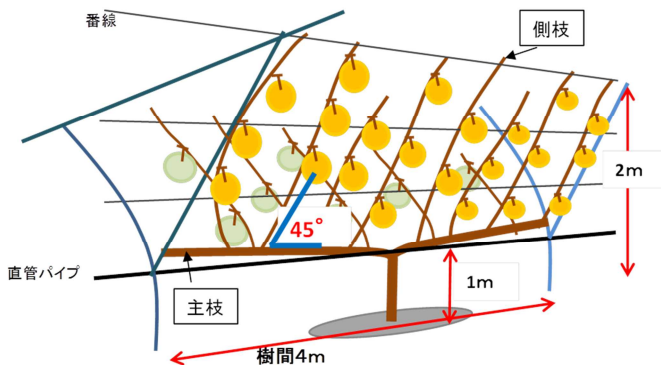


図1 仕立て方



図2 収穫作業の様子

●早期成園化が可能

通常、成園並の収量を得るには定植から8年以上かかりますが、この仕立て方では、「幸水」において定植4年目で1樹当たりの収量が約38kg(2.7t/10a)となり、早期に成園並の収量が得られます(図3)。

●水稲の収穫期を外した品種選定が可能

梨は同一品種間では結実しません。異品種を混植する必要がありますが、水稲の収穫期と重複しない品種選定も可能です(図4)。

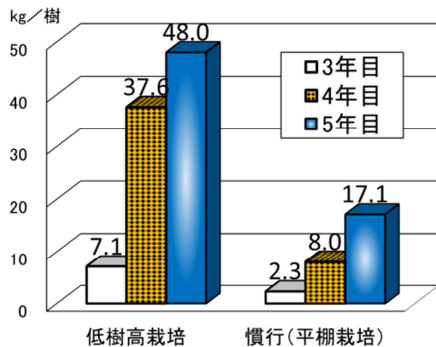


図3 「幸水」における定植後の収量比較

品種名	8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
なつしずく												
筑水												
幸水												
凜夏												
豊水												
あきづき												
甘太												
新高												
王秋												

図4 収穫期の目安

果実が比較的低い位置にあるので上向き作業が少なく、樹形が簡単でせん定作業も簡単で早くできるので、初心者でも取組みやすい栽培方法です。是非とも取り組んでみてください。詳しくは当課までご相談ください。